

十勝岳

1 概況

62-2 火口は高温の状態が続いています。火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

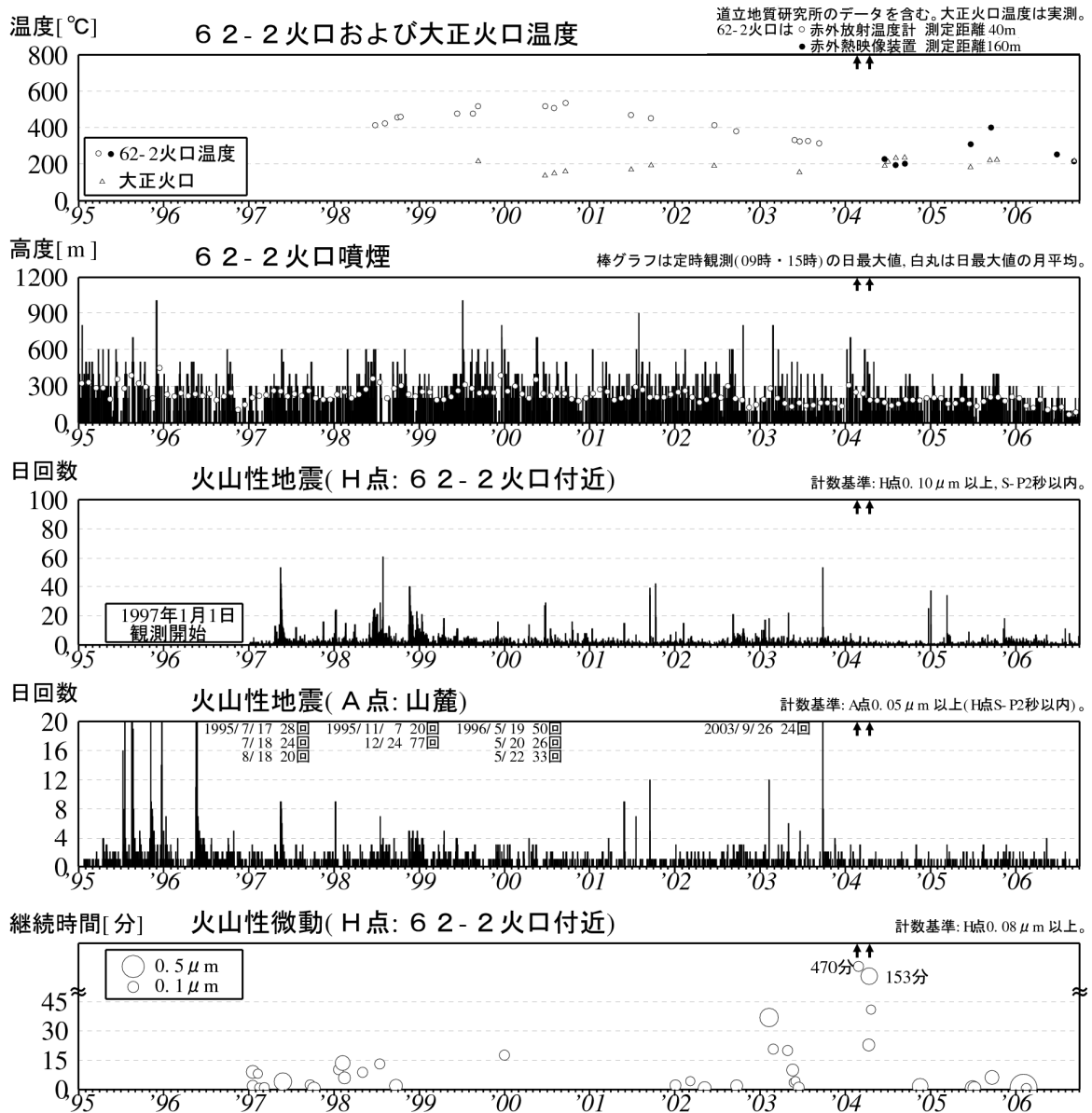


図 1 十勝岳 最近の火山活動経過図（1995 年 1 月～2006 年 9 月） ↑印はごく小規模な噴火

十勝岳の火山活動解説資料は気象庁の他に、北海道のデータも使用して作成しています。
 本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています。(承認番号 平 17 総使、第 503 号)

2 噴煙および火口の状況

62-2 火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙の高さは概ね火口縁上 100m で推移しました。

9 月 6～9 日に調査観測を実施しました。62-2 火口では高温の状態が続いていました。その他の火口も、前回 (2006 年 6 月) の状況と比べて大きな変化はありませんでした。

【62-2 火口】

やや活発な噴煙活動が続いており、火口縁では強い二酸化硫黄 (SO₂) 臭が認められました。これまでの観測で認められていた西側火口底の活発な噴気は衰退し、噴気孔のまわりは湯溜まりの状態になっていました。北側内壁の噴気孔からは、噴気を勢いよく噴出していました。

赤外熱映像装置*により測定した 62-2 火口の温度は約 220℃で、前回 (2006 年 6 月 : 約 250℃) に引き続き高温の状態が続いていました。

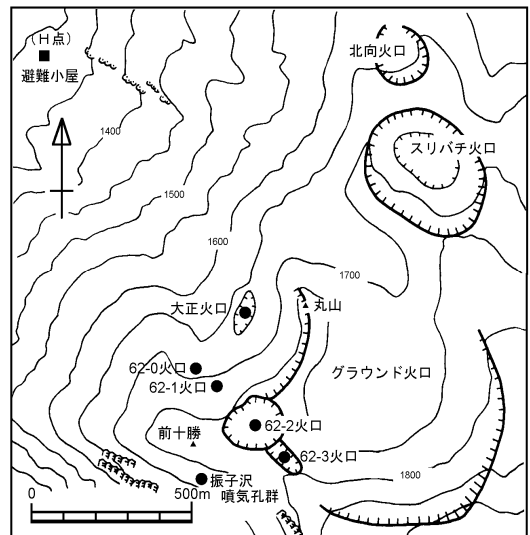


図 2 十勝岳 火口周辺図

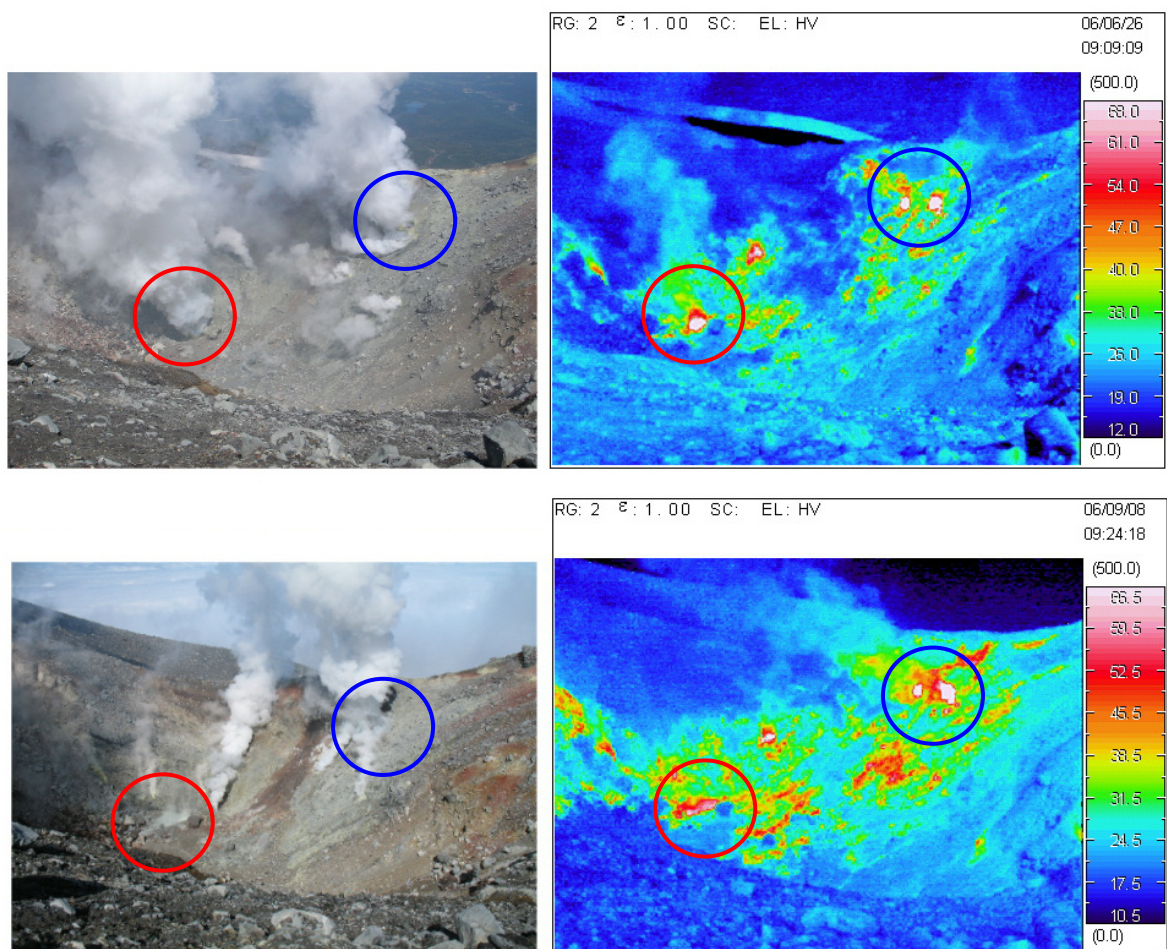


図 3 十勝岳 赤外熱映像装置による 62 - 2 火口の表面温度分布

(上 : 2006 年 6 月 26 日 下 : 2006 年 9 月 8 日) ○ : 西側火口底の噴気孔 ○ : 北側内壁の噴気孔
西側火口底の噴気は衰退したが、北側内壁の噴気孔からは噴気が勢いよく噴出している。

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

3 地震および微動の発生状況

火山性地震は、1日あたり0～6回と少ない状態で経過しました。震源はこれまでと同様、主にグラウンド火口周辺の浅い所（山頂から深さ1～3km付近）に分布していると推定されます。火山性微動は観測されませんでした。

表1 十勝岳 地震・微動の月回数（H点：図4のTOKH A点：TOKA）

2005～2006年	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
H点地震回数	25	78	69	32	44	48	37	32	16	25	22	19
A点地震回数	7	14	9	6	8	10	4	12	3	6	2	2
H点微動回数	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0

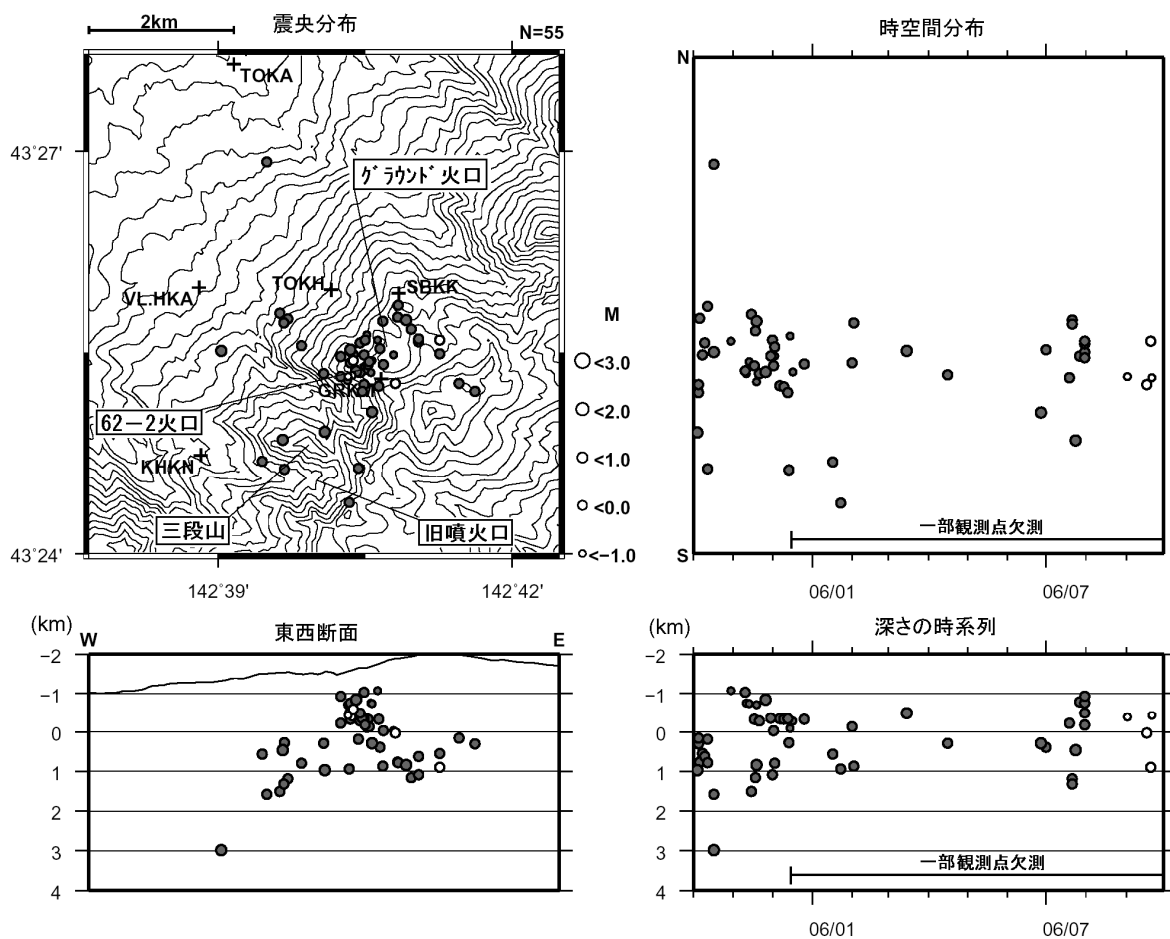


図4 十勝岳の震源分布図（2005年10月～2006年9月、+は地震観測点、気象庁と北海道のデータを使用）

※2005年12月19日以降、一部観測点欠測のため震源決定能力が低下しています。

○印は今期間(2006年9月)に求まった震源を示しています。

●印は前期間までの11ヶ月間(2005年10月～2006年8月)に求まった震源を示しています。

前期間までの震源はグラウンド火口周辺の浅い所（山頂から深さ1～3km付近）に集中しているほか、三段山～旧噴火口周辺の浅い所にも分布しています。今期間に求まった震源は、グラウンド火口周辺の浅いところに分布しています。

4 地殻変動の状況

山麓における GPS 連続観測および 6~8 日にかけて 62-2 火口周辺で実施した GPS 繰り返し観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は観測されませんでした。

【GPS 連続観測】

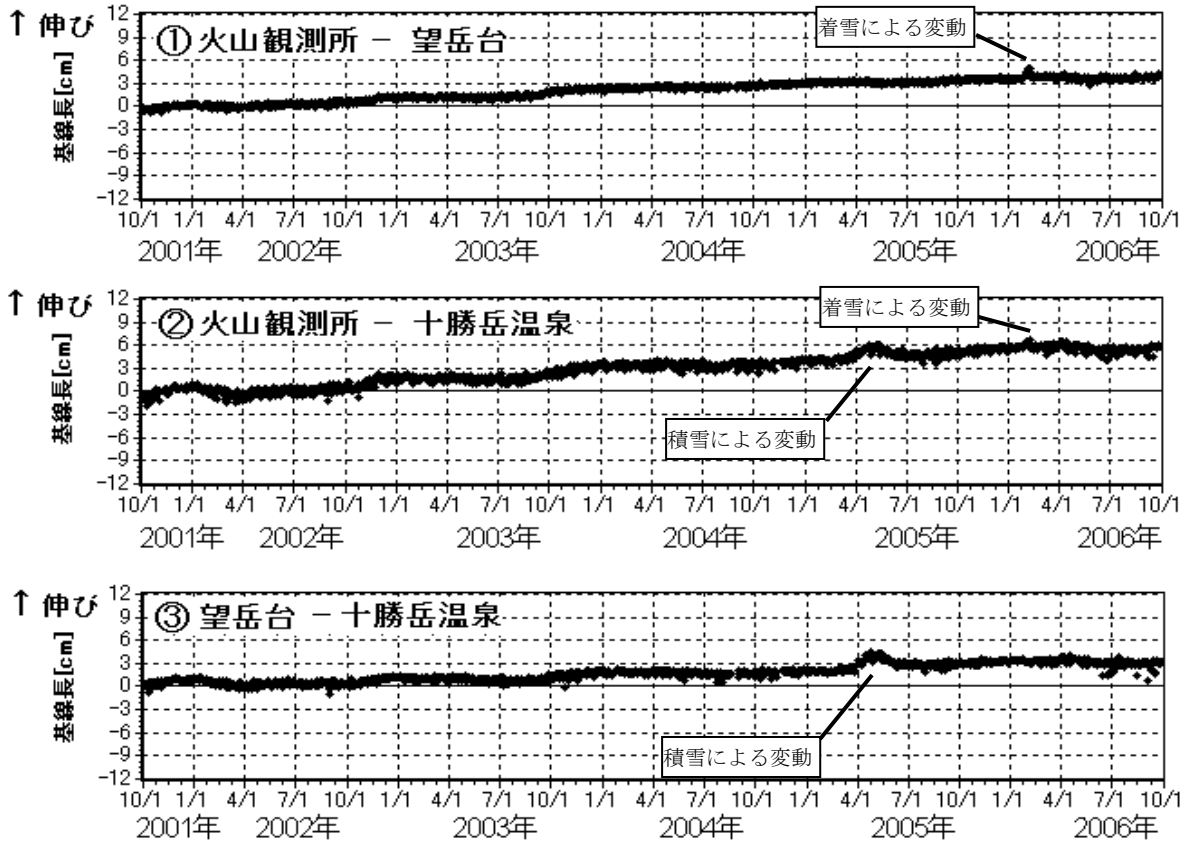


図 5 十勝岳 基線長変化 (2001 年 10 月~2006 年 9 月)

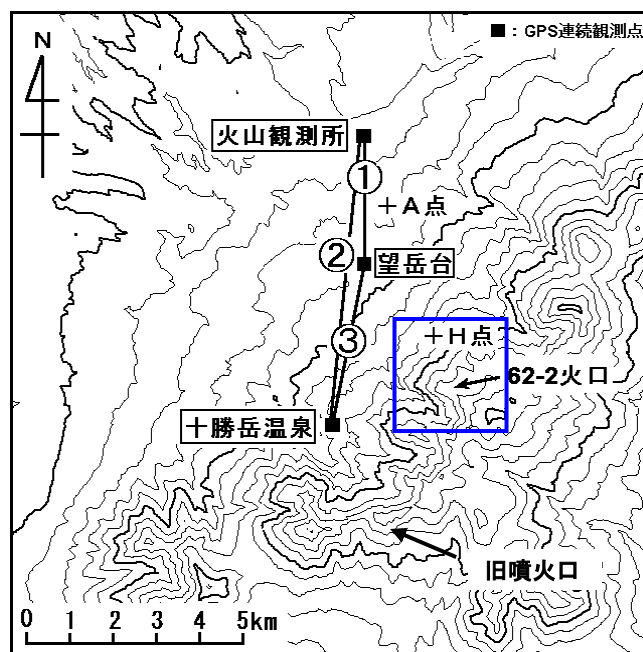


図 6 十勝岳 GPS 観測点配置図 (□は図 8 の表示範囲)

【GPS 繰り返し観測】

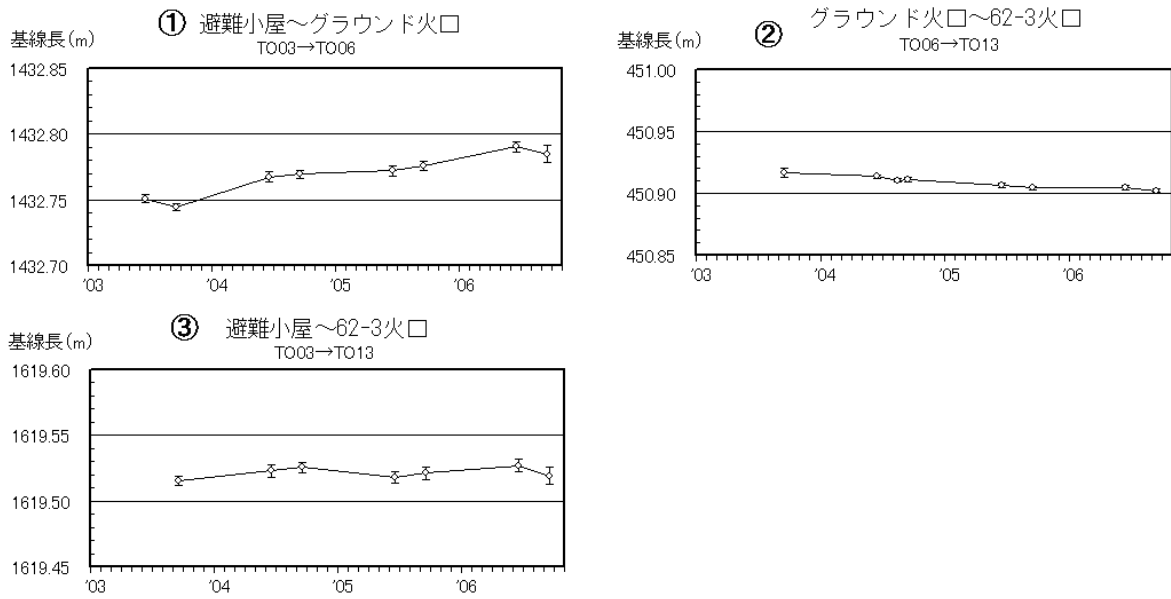


図 7 十勝岳 62-2 火口周辺の基線長変化

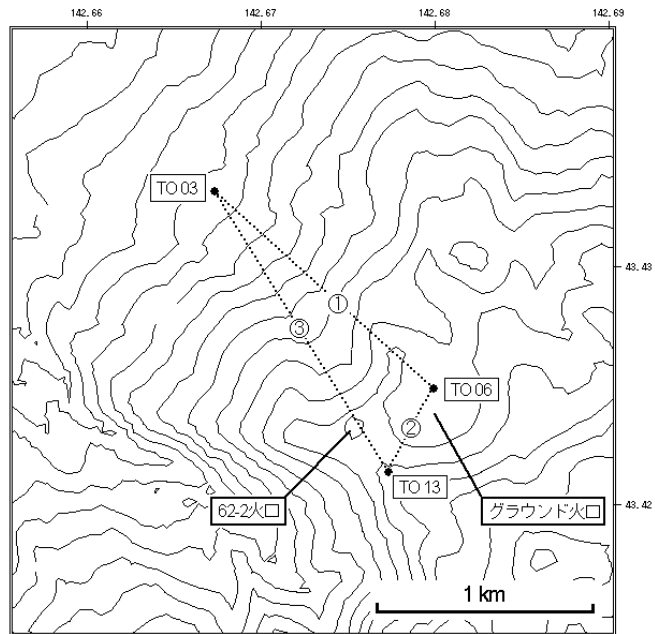


図 8 十勝岳 山頂GPS繰り返し観測点配置図